

《2015年 5月 証し》

近況・座標軸

鳥井新平

私はこれまで政治に対して積極的ではありませんでした。無関心の一歩手前。選挙に足は運んでも、その結果や現状に対していつも裏切られ、失望の連続。挙句の果てには、この社会がどんどん望まない方向につきすすんでいくことに対して絶望感すら抱くようになってきてしまっている昨今でした。もし私の政治に対する座標軸をノートに描くとすると、縦軸が平和軸。横軸が人権軸となると思います。そして二つの軸の交わる原点は荘冠の主イエス・キリストです。

ところが、意気地のない鳥井新平の平和・人権の座標軸は時の政権の暴挙と日常的な無関心を装うマスコミ・一般大衆の鈍感さに辟易となり、みかんの汁で書いたあぶりだしのように、もう見えなくなってしまったような情けない日常でした。しかし！！！そこに主は復活され、ガリラヤに先立ちて進みゆかれた！！！

ハレルヤ！！アーメン！！！

部落差別と闘う近江平安教会いばらの会や滋賀の仲間のカンパに押し出されて、沖縄の辺野古に米軍基地を作らせないために、キムキガンさんが出かけて行って、何度も現地からフェイスブックで状況を伝えてくれています。キムキガンさんは役者として、これまでにも一人芝居で在日が三世代で登場する「在日バイタルチェック」や部落差別により幼なじみの親友を亡くした女性が弁護士になって、むらに帰って闘っていくストーリーの『人の值打ち』などで精力的に表現を通して、人の尊厳を訴えつづけています。そのキガンさんからのリアルな辺野古レポートは正に、非暴力で人殺しの基地、サンゴやジュゴンを圧殺する政府の暴力に対して仲間の連帯を創り出していく貴重な働きだとうれしくなっています。縦軸の線がはっきりと出てきました。キガンさん、ありがとう。

次に縦軸の人権です。最近、友達になったTさんは被差別部落で生まれ育った32歳。時限立法で切れた同和対策事業後も地域の自発的な活動にこだわって、その集会所を仲間たちと自力で活用・運営している若き活動家です。そんな彼が「人権に市民権を！」を合言葉に、若い仲間に押し出される形で市議会に立候補することを決意したのでした。彼の立候補の経緯と、それに伴うフットワークの軽い動きを見ていると、従来の選挙にはなかった真実味と可能性を感じて、喜びのワクワク感が高まるのです。地域の銭湯に出かけていって高齢者の方々と語らい、衰退した靴産業の職人さんが新たに小物の革製品を作るプロジェクトをたちあげ、外国籍の子どもをはじめとしたいろいろな背景をもつ子どもたちの居場所と学びの場所をつくるTさんの行動力を発言はこれから、この町をとても温もりのある、人を大事にした住みよいところに変えてくれるものと確信がもてる所以でした。私の縦軸も鮮明になってきました。Tさん、ありがとう。

イエス・キリストを原点とする座標軸が再び明確になりはじめた頃、改めて詩編1編の3節の言葉を思い出すのでした。「その人は流れのほとりに植えられた木。ときが巡り来れば実を結び 葉もしおれることがない。」それと同時に、水平社宣言の中の一節「呪われの夜の悪夢のうちにも、なお誇り得る人間の血は、涸れずにあった。」という言葉が響き続けるのでした。